

M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny およびR8C/Tinyシリーズ用デバッグパッケージ V.1.00 Release 00 リリースのお知らせ

M16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny, およびR8C/Tinyシリーズ用(以下M16Cと略す) デバッグパッケージ V.1.00 Release 00をリリースしました。

1. 概要

本デバッグパッケージは、High-performance Embedded Workshop V.4 (以下V.4と略す) 上で動作します。V.4では、従来の統合開発環境TM (以下TMと略す) およびエミュレータデバッグM3T-PDxxやKDxx (以下PDデバッグと略す) の特長ある機能を取り込み、ルネサスとして統一されたユーザインタフェイスを提供しています。

V.4の詳細については、2005年1月26日発行のRENESAS TOOL NEWS "High-performance Embedded Workshop V.4.00.00 へのバージョンアップのお知らせ"を参照してください。

2. 機能

本デバッグパッケージは、以下のデバッグ相当の機能を持ちます。

- **PC7501エミュレータ用デバッグM3T-PD30F**
(M16C/60, M16C/30, およびM16C/Tinyシリーズ用)
注 : R8C/Tinyシリーズ用は開発中。
- **PC4701エミュレータ用デバッグM3T-PD30**
(M16C/60, M16C/30, M16C/20, およびM16C/10シリーズ用)
注 : 本デバッグパッケージではPC4701U, PC4701M, PC4701HS, およびPC4700Hエミュレータをサポートしています。PC4701LおよびPC4700Lエミュレータはサポートしていません。
- **コンパクトエミュレータ用デバッグM3T-PD30MF**
(M16C/Tinyシリーズ用)
注 : R8C/Tinyシリーズ用は開発中。本デバッグパッケージではM16C/62A, M16C/30, およびM16C/6Kコンパクトエミュレータ用デバッグM3T-PD30Mはサポートしていません。

- ・ **M3A-0665 (FoUSB/UART) エミュレータ用デバuggaKD30**
(M16C/60, M16C/20, M16C/10, M16C/Tiny, および
R8C/Tinyシリーズ用)

上記デバugga製品からの変更点：

- (1) これまで、M16Cの統合開発環境High-performance Embedded Workshop下では、プログラムのビルドのみ可能で、上記のデバuggaは、外部ツールとして呼び出されていました。
しかし、本デバuggaパッケージを使用することにより、統合開発環境High-performance Embedded Workshop下で、エミュレータを使用したデバuggも可能となります。これにより、統合開発環境下でコーディング、コンパイル、シミュレーション、およびデバuggの作業がシームレスに実行できます。エディタ、コンパイラ、シミュレータデバugg、およびエミュレータデバuggを個々に起動する必要はありません。
- (2) V.4環境下のデバuggでは、複数エミュレータに共通であるレジスタおよびメモリなどの基本デバuggウィンドウは、ターゲットマイコンに関わりなく同じ操作性で統一しています。(個々のエミュレータに依存するトレース機能やハードウェアブレイクなどのウィンドウは、従来の個々のエミュレータデバuggの操作性を維持しています。)

3. 動作環境

ホストコンピュータ：IBM PC/AT互換機

OS：Windows XP, Windows 2000, Windows Me, Windows 98SE

4. PDデバuggaとの相違点

- (1) 本デバuggaパッケージでは、OSデバugg機能はサポートしていません。OSデバugg機能を使用する場合は、各エミュレータに対応したPDデバuggaをご使用ください。OSデバugg機能は次回バージョンアップ時にサポートします。
- (2) 本デバuggaパッケージとPDSDK COMキットで作成したアプリケーションとの連携に関しては、弊社サポート窓口までお問い合わせください。
- (3) 本デバuggaパッケージでは、キャッツ社製CASEツールZIPCと連携していません。ZIPCとの連携機能を使用する場合は、各エミュレータに対応したPDデバuggaをご使用ください。

- (4) 本デバッグパッケージでは、CB (Custom Builder) で作成したコマンドおよびウィンドウは動作しません。
- (5) M16C用シミュレータデバッグもHigh-performance Embedded Workshop V.4上で動作しますが、本デバッグパッケージには含まれていません。
M16C用シミュレータデバッグは2月1日リリースのM16CコンパイラパッケージM3T-NC30WA V.5.30 Release 02に含まれています。オンラインバージョンアップサイトでM3T-NC30WA V.5.30 Release 02へのリビジョンアップが可能です。

5. PDデバッグで発生していた制限事項の改修内容

本デバッグパッケージでは、PDデバッグで発生していた以下の制限事項を改修しています。

- (1) 付属のユーティリティSetIp.exeを使用したとき、エミュレータにIPアドレス等を設定できないことがある。
詳細は、2004年6月1日発行のRENESAS TOOL NEWS "M3T-PD32R, M3T-PD308F, M3T-PD308, M3T-PD30F, M3T-PD30, M3T-PD79, M3T-PD77, M3T-PD38ご使用上のお願い" を参照してください。
- (2) Cウォッチウィンドウで構造体、共用体、クラス、配列、およびポインタを展開すると、エミュレータデバッグがハングアップすることがある。
詳細は、2004年8月1日発行のRENESAS TOOL NEWS "M3T-PD32RM, M3T-PD32R, M3T-PD308F, M3T-PD308, M3T-PD30F および M3T-PD30ご使用上のお願い" を参照してください。
- (3) Cウォッチウィンドウで構造体、共用体、構造体配列または共用体配列のグローバル変数を展開すると、エミュレータデバッグが異常終了することがある。
詳細は、2004年9月1日発行のRENESAS TOOL NEWS "M3T-PD32RM, M3T-PD32R, M3T-PD308F, M3T-PD308, M3T-PD30F および M3T-PD30ご使用上のお願い" を参照してください。
- (4) Cウォッチウィンドウを使って変数をRAMモニタ表示した場合、正しい値が表示されないことがある。
詳細は、2004年12月1日発行のRENESAS TOOL NEWS "M3T-PD308F, M3T-PD30F, およびM3T-PD30MFご使用上のお願い" を参照してください。

6. High-performance Embedded Workshop V.3制限事項の改修内容

2005年1月26日発行のRENESAS TOOL NEWS "High-performance Embedded Workshop V.4.00.00 へのバージョンアップのお知らせ" を参照してください。

7. 入手方法

以下のオンラインアップデートサイトから本デバッガパッケージをダウンロードしてください。

日本語版

英語版

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.